

## 平成 23 年度第 CPD 協議会総会議事録(案)

**日 時**：平成 23 年 6 月 9 日（木） 16 時 00 分～17 時 30 分

**場 所**：建築会館 3 階 301 会議室（港区芝 5-26-20）

**出席者**：(順不同、敬称略)：

協議会会長 広崎 膨太郎（日本工学会副会長、日本電気）  
同・前会長 桑原 洋（日本工学会前副会長、日立マクセル）  
同・副会長 橋谷 元由（日本工学会理事、化学工学会）  
WG 主査 関田 真澄（日本冷凍空調学会）、川島 一彦（日本工学会）  
会員代表 半田 良彦（空気調和・衛生工学会）、児玉 公信（情報処理学会）、  
岡部 進（資源・素材学会）、伊藤 政人（地盤工学会）、  
児玉 孝亮（電気学会）、鈴木忠道（電子情報通信学会）、  
日比谷 啓介（土木学会）、柳田 三徳（日本応用地質学会）、  
遠藤 滋（日本化学会）、真木 康守（日本建築学会）、  
井上 和久（日本コンクリート工学会）、岡田 博（日本マシエンジニアリング学会）、  
吉井 博（日本技術士会）、石川 善信（プレストレストコンクリート技術協会）  
事務局 四戸 靖郷

**配布資料**：

- G23-1：平成 22 年度 CPD 協議会総会議事録
- G23-2：平成 22 年度第 2 回 CPD 協議会運営会議議事録
- G23-3：平成 22 年度 CPD 協議会諸会議開催記録
- G23-4：CPD-WG 平成 22 年度活動報告及び平成 23 年度計画
- G23-5：ECE-WG 平成 22 年度活動報告及び平成 23 年度計画
- G23-6：平成 22 年度収支決算報告および平成 23 年度収支予算
- G23-7：平成 23 年度 CPD 協議会委員名簿(更新中／未完成)
- 添付 1：日本工学会 CPD ガイドライン
- 添付 2：CPD ポータルシステム操作マニュアル

**議 事**：

協議会会長が新しく就任され、また、学協会代表委員の交代もあるので、開会前に、自己紹介が行われ、橋谷協議会副会長の司会の下に議事が進められた。

### 1. 桑原前会長挨拶

皆様のご協力のもと、協会会長を務めることができ、お礼を申し上げたい。  
当初、JABEE の次は CPD という意志を強く持っていたが、なかなかそうはいかなかった。  
人材育成は国の仕事である。しかし、現実には団体や企業の中で行われており、日本全体としての力にならない。日本工学会が少しずつ国全体の教育につながるようにしていかなければならないと考えている。この方向に向けて進んでいって欲しい。  
国の予算は継続的に続くものではないので、政治の力を借りることが必要であり、その方面には力になれると思う。

## 2. 広崎膨太郎新協議会会長の就任挨拶

新任なのでこれから勉強していきたい。出身は電子情報通信学会で、OECDの産業諮問委員会のチェアマンとして、世界の中の日本を意識している。

人財育成は国として大事な事業であるが、国が十分力を発揮していない。若い人は課題設定能力が弱い。企業も社内教育がしにくくなっており、外の力で補う必要がある。

日本工学会は明治12年に土木、電気、機械、造家、化学、鉱山、冶金の7学科23人で発足したが、その後分野の幅が広がっており、横の連携がしにくくなっているため、横の連携のできる人財を育成することが必要である。

## 3. 前回議事録確認

昨平成22年5月20日に開催された平成22年度協議会総会の議事録案を確認した。

## 4. 平成22年度活動報告及び平成23年度活動方針(WG)

### (1) CPD-WG(関田主査)

#### 1) 平成22年度活動報告

##### ① CPDガイドラインの公表

平成21年度において策定したCPDガイドラインについて、小冊子にまとめ加盟学協会や関係者に配布し、日本工学会のホームページで公開した。

##### ② ポータルサイトの構築

長年の懸案であった、CPDプログラムポータルサイトが本年度においてほぼ完成し、幾つかの会員学協会の協力を得てテストランを行った。これは日本工学会HP上でCPD協議会加盟の学協会のCPDプログラムの一覧を見たり検索できるもので、プログラム掲載(提供者=会員学協会および管理者=工学会事務局)の人的負担を最小にすることとしなおかつ予算も基金の範囲内最小予算で実施した。

#### 2) 平成23年度活動予定

##### ① CPDガイドラインの活用

ガイドラインの適用を呼び掛けつつ、参加各学協会の現状とガイドラインとの乖離を調査し、ガイドラインの活用を検討していく

##### ② ポータルサイトの整備・改良

試行を終えて、本年6月から公開したが、形がそれぞれに異なる各学協会のWeb掲載頁を拾いこみが一部できないケースもあり、今後、掲載者側の協力も一部お願いしつつ、改善・改良を図っていくこととする。

ポータルサイトシステム開発委託事業の検収を行い、これに基づき委託業者に所定費用の支払いを行う。

##### ③ ポータルサイトの追加発注

今回納品された当初発注仕様のシステムバージョンでは、対応が不十分な掲載仕様もあり、全てに対応する仕様の追加発注を行う必要があり、本年度に多少の追加予算の承認を得て実施したい。

主たる議論：

- ・平成23年度の主たる活動は、ポータルサイトの修正か(電気:児玉委員)
- ーポータルサイトの効果を見極めること、およびポータルサイトのPR活動と考えている。

## (2) ECE- WG (川島主査)

### 1) 平成 22 年度活動状況報告

#### ① ナノテク ECE プログラムの第 1 回実施

産総研が実施した、文科省の「実践型研究リーダー養成事業における平成 22 年度新規課題募集」に採用された「ナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラム」に、ECE プログラムとしての構成、評価プロセスを取り入れ、工学会としても応用分野に関する講師 2 名の派遣を行い、産総研に相乗りする形でナノテク ECE プログラムの実現を果たすことができた。

平成 22 年 8 月 30 日～9 月 3 日に産総研での座学が終わり、その後各受け入れ企業においての実習を終え、年度をまたぎ 5 月に終了した。全課程修了者は 4 名であった。

#### ② その他の ECE プログラムの素案検討

ナノテク ECE プログラムに次ぐ ECE プログラムとして、環境問題を取り上げることとして検討を開始したが、範囲が広く多分野に及ぶため、幾つかに絞って研究することになった。さらに、材料技術分野での検討も始まった。

### 2) 平成 23 年度活動計画

#### ① ECE プログラム修了者への終了認定証の交付

産総研との提携によるナノテク ECE プログラム研修終了者第 1 期 4 名に対し、「ナノテク ECE プログラム推進委員会から「認定証」を交付する。これは ECE プログラムの意義を普及し、受講者の意識高揚を図るものである。

#### ② 先端計測とナノ物質 ECE プログラム

第 2 番目の ECE プログラムとして、平成 23 年度から物質・材料研究機構主催で“先端計測とナノ物質 ECE プログラム”を開始予定である。これは、物質・材料研究の最先端であるナノテクノロジーの基幹技術である先端計測技術の原理と可能性について理解し、新機能を持つナノ物質の例と利用を拡大できる高度技術者を育成することを目的とする。このため、ECE プログラム委員会の中に物質・材料基礎 ECE プログラム推進委員会（委員長：岸 輝雄前日本工学会会長）を設立し、物質・材料基礎 ECE プログラムの開発、実施、プログラム評価基準の策定及び評価等を行っていく予定としている。

#### ③ その他の ECE プログラム

その他の ECE プログラムとして、環境、スマートグリッド等に関する ECE プログラムの立ち上げを検討する。

なお、もともと ECE プログラムは学協会が協力し合って ECE プログラムの理念に適合するプログラムを実施していくことが望ましいが、まずは日本工学会 CPD 協議会が自ら ECE プログラムの立ち上げを先行させた。いくつかの事例が出てきた段階で、学協会が自ら連携することにより積極的に ECE プログラムを立ち上げていくことが望まれることから、この実施に必要な環境整備についても検討する予定である。

## 主たる意見・議論

- ・ ECE プログラムの認定書を産業界がどう評価するかが問題である。ECE プログラムが社会に認知されることを期待する(会長)
- ・ ECE という言葉は外国でも通用するか(会長)
- －外国では Capacity Building の方が通用するのではないか。しかし、Capacity

Buildingには海外なりの事情の下でやっているという背景があり、これにすり寄っていくのではなく、日本の必要性に応じて立ち上げたECEプログラムにはECEという独自の名称を与えるようにした。(川島主査)

- ・日本工学会としての矜持があって、それを主張するようにすれば良い。村上陽一郎著「工学の歴史と技術の倫理」を読むと、Engineeringは日本が発祥としても良いように思えるので、日本のものとして“ECE”を展開できれば良いと思うので、しっかり進めて欲しい(会長)
- ・「ナノエレクトロニクス実践型研究リーダー養成プログラム」は単年度で終わってしまうのか(電気:児玉委員)
- ーこのプログラムは、文科省の「中核人材育成事業」として進められたので、プログラム完成後は自立して運営することが求められている。従って、単年度ということではなく続けていくことになる(橋谷)

## 5. 平成22年度決算報告および平成23年度予算計画

日本工学会決算報告および予算計画として同会定時総会で承認された財務諸表を基礎とした、平成22年度収支計算書および平成23年度収支予算計画について、事務局から説明があった。

- ① CPDポータルシステム開発委託費は「技術者能力開発準備基金」から支出されるが、会計上「ソフトウェア資産」の納品となり、そのための中間的支出は「前払い金」として貸借対照表に明記され、平成23年度に検収後支払を完了後、前記「基金」から取り崩し、新たなソフトウェアとしての資産を取得した形の資産変動が計上され、以上は平成23年度予算に反映されるとの説明があった。予算書において一部転記ミスがあり訂正する。
- ② ここで、橋谷副会長から、ポータルシステム改良追加開発費用支出の申請が「動議(議案)」として提起された。

現在120万円の支出が承認されているが、平成23年度計画にあるとおり追加開発のため、平成23年度に80万円を基金から取り崩し、合わせて200万円を引き当てること申請され、審議が行われた結果、全会一致で承認された。日本工学会理事会に報告し、承認を受けて実行されることになった。

最後に事務局から、新旧交代の時期であり、各会員学協会のご協力を得ながら平成23年度の会員・委員名簿の更新・作成を行っており近く完成させるので、後日委員各位お送りする旨説明があった。

以上の確認、審議を終え、本協議会総会を閉会した。

以上